

ひとりひとりひかる

きぼう

2012 4/1
第68号

発行：かしの木の会/かしの木の里内 一宮市富田字砂原 2147 : kasisato@f7.dion.ne.jp
 榎の木園 : kasien@k3.dion.ne.jp 榎の木作業所 : kasisyo@k2.dion.ne.jp
 かしの木 ホームページ [http : www.h3.dion.ne.jp/~kst/](http://www.h3.dion.ne.jp/~kst/)



かしの木音楽会

「第7回かしの木音楽会」が、平成24年2月5日(日)尾西グリーンプラザ講堂において、賑やかに開催されました。毎年参加して下さる出演者の方、初めて参加される方、「皆さんこんにちは、今年も元気に会えたね。」とまずはご挨拶。出演者のみなさんの迫力のある生のステージに会場のボルテージは一気に上り詰め、思い余って来場者のみなさんも客席を飛び出し、一緒になって踊りながら楽しいひと時を過ごしました。お互いに「来年も元気で、会いましょう。」と固い約束を交わしましたよ。

68号きぼうの目次

表紙・写真・目次	・ P. 1
地域福祉コーナー①/きーぶ	・ P. 2
地域福祉コーナー②/そらまめキッズ活動状況	・ P. 3
かしの木の会コーナー/かしの木音楽会	・ P. 4
かしの木の会コーナー/いぶきケアホーム見学	・ P. 5
かしの木の会コーナー/NPO 羽島ボラ協会ホーム見学	・ P. 6
かしの木の会コーナー/チャイブ保護者会	・ P. 7
文芸コーナー/複数の人間存在間における痛み	・ P. 8
文芸コーナー/複数の人間存在間における痛み	・ P. 9
お知らせコーナー/予定など	・ P. 10

地域福祉コーナー



こんにちは『きーぷ』です

暖かい陽気の中みなさん、いかがお過ごしでしょうか？今回は前回の続きの「地域支援」についてお伝えしたいと思います。

「きーぷ」にて外出の支援をしていると、色々な店、色々な方達との出会いがあります。

以前、電車を利用してTさん(車いす利用の方)と名古屋まで出かけた時、初めて乗車拒否というものにあいました。「車いすが規格より大きい為、もう乗車してもらっては困る。」ということでした。2年くらい利用しているのに、初めてそんな理不尽な事を言われました。

この事を鉄道会社の上層部に伝え、謝罪の言葉は頂けましたが、Tさんの心は一度は傷つきました。しかし、Tさんは強い方です。別の会社の電車に乗って名古屋に出かけるって言われました。→このポジティブな心に助けられます(ホッ)

も出てきますが、うまく対応してもらえるお店も増えてきました。例えば床屋での対応ですが、“10分で仕上げしてほしい”という要望にもきちんと応えてくれています。こだわりをもった方や重度の方にも、上手に声掛け等をして、ご協力して頂いています。

レジでお金を支払う時でも、きちんとその方に合った対応をして頂けたりと、みなさんとても素敵な対応をしてくれます。(少し怖顔の笑顔は最高です)

コンビニでも利用回数を重ねると、その方にとって必要と思われる物を覚えてくださり、用意していただけるようになりました。

出入りが多いコンビニで、利用者さんが落ち着いていられるのは、色々な要素があるとは思いますが、働いている方の温かさも一つの要因だと思います。

外出先で困った事が起こった時はもちろん、うれしい対応に出会った時も先方にお伝えし、地域にフィードバックしていくことも、私達ヘルパーの役割だと思っています。

これからも、利用者さんと色々な方達と出会いながら、素敵な笑顔を地域へ広げていきたいです。

H24.3 山口

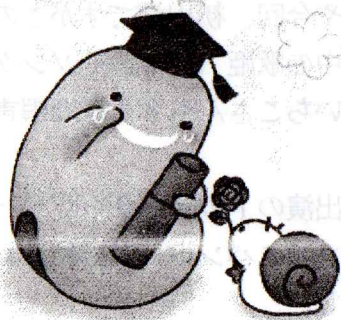


利用者の御家族から、「歯医者や床屋に連れて行ってほしい。」という依頼もあります。なかなかその場所が苦手な利用者さんだと、いろいろ困ること

施設コーナー

放課後等デイサービス そら豆キッズ

昨年5月16日の開所から、保護者の方や地域の皆様、そして何より、子どもたちの笑顔に支えられ、もうすぐ1年が経とうとしています。そら豆キッズの仲間たちも、元気いっぱい遊びに学びに仕事に励んでいます。



年度末を迎え、そら豆キッズからも、2名の第1期卒業生が旅立っていきました。1年間、就労体験でおやまのカフェ

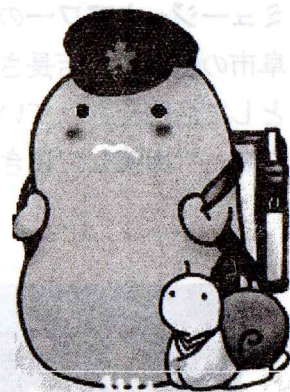
や建物内のメンテナンスの仕事を通し、様々な経験を積んできた2人です。学校を卒業し社会人になっても、元気に頑張ってくれることと思います。2人のご活躍をスタッフ一同心よりお祈りしています。



2月23日(木) 親御さんと今まで一緒に仕事をしてきたスタッフたちに見届けられ、そら豆キッズの卒業式が行われました。

4月からは、新しい仲間たちも入ってくる予定です。みんなに負けないよう、スタッフも気持ちを新たにがんばって行きたいと思います。

今まで児童デイサービスは、「障害者自立支援法」の枠組みの中で事業を行ってききましたが、障害児支援の強化を図るため、4月からは「児童福祉法」に基づいた事業となります。現在の「児童デイサービス」から、新たに創設された「放課後等デイサービス」へと移行し、就学期の児童・生徒に対して、放課後または休業日において、生活能力向上のための訓練等を継続的に提供することにより、学校教育等と相まって障害児の自立を促進するとともに、子どもたちの居場所づくりを目的としていきます。



法改正に伴い利用料等の変更点もありますが、提供する内容としては、今までと変わらず、グループでの活動や個別支援、就労体験を引き続き行っていきます。

今後とも、よろしくお願い致します。

放課後等デイサービス そら豆キッズ

かしの木の会コーナー①

かしの木音楽会を終えて イベント委員会

かしの木の会音楽会を今年も開催することが出来ました。

「みんなでつなごうこころの絆」をテーマに、2月5日(日)グリーンプラザ講堂にて開催しました。

2・3日前は各地が積雪で、外出する事すら大変でしたが、当日は日差しも良くほんのり暖かい日になり、大勢のお客さんで客席が埋まり、スタッフも笑顔があふれました。

この音楽会も早7回を迎え、皆さんとお馴染みになったミュージックアワーのリーダーであるナッキーさんの司会・出演で始まり、客席からの飛び入り出演もあり、最初から盛り上がりました。

ミュージックアワーのメンバーは、日頃は岐阜市の焼肉屋の店長さんや洋服店の店長さんとして活躍をされている方々で、仕事の合間を縫って出演して頂きました。



又、透明感のある声が水のごとくすんなりと身体に入る歌で、大変人気のあるスワンリバーページさんや今回、初出演ですがこの西尾張地方で活躍中の歌姫(シンガーソングライター)あき いちこさんもすてきな唄声でしたね。

今回で2回目出演のトガチッチ(ボランティアのオジサンロックバンド)の方達はパワー溢れる演奏でした。

最後にトガチッチの生演奏で「マル・マル・モリ・モリ」&「会いたかった」を会場の皆さんと一緒に歌い踊っておおいに盛り上がり、終わることが出来ました。

かしの木音楽会にいつも快く出演してくださる皆様に、心から感謝しています。

今回の音楽会については、昨年の11月の半ばから4~5回、5名ほどのイベント委員会で企画を行い、ボランティア・知り合いの方達に声をかけたところ、気持ち良く手伝っていただき、本当にありがとうございました。

この紙面をお借りして、お礼申し上げます。次回も楽しい音楽会になるように企画致しますので、お楽しみに!

ちなみに、次回は平成25年2月11日(祝)の予定です。

イベント委員会 高松

かしの木の会コーナー②

あっとホーム委員会

いぶき ケアホーム 見学

平成23年11月11日にあっとホーム委員会で、岐阜市のいぶき福祉会「パストラルいぶき(ケアホーム・レスパイト)」の見学をしました。

とても開放的なゆったりスペースのダイニングや団らんの場所を中央にとり、窓から吹き抜けに向けて風の通り抜けが爽やかで、とても居心地のよい住居でした。車イスの利用でも動きがとりやすいように広めの通路・出入り口等のバリアフリー住居にされていることや、親亡き後に預かることになる家財等を保管できる収納スペースも考えてあり、将来を見据えた構造になっていました。また、ショートステイのお部屋も完備されていて、安心感がありました。

「我が子もこんなところで落ち着いて生活できたら...。」と羨ましく思いました。入居されている皆さんが、“ゆったり落ち着いて自分らしい暮らしができるように”との思いが詰まった素敵な住まいでした。

北川施設長さんの「外装や形にこだわった質の良い商品を提供することで賃金の確保ができ職場や住居の環境作りが可能になる。そして利用者の方の人権を守りながら、地域の皆さんと共に人生を支えていくことをが大事」とのお話しに感動しました。と同時に自己財源の寄付金が高額なのは「親がどれだけ子供の為に真剣に動いたかの証し」との言葉が胸に残りました。

◎具体的にお聞きしたこと

- (1)計画： 設計コンペ方式で建物・設備の仕様を決めていった。5社のコンペになった。建物および設備には30年先まで配慮した。主なものは次の通り

- ・ 車いすが使えるようにバリアフリー化
- ・ 一人のスタッフで作業ができるように風呂のリフト取り付け
- ・ 水回りを特に入念にして耐久性を持たせた。
- ・ 毎月の光熱費が少しでも安くなるような設備の導入——床暖房
- ・ 家財の保管用スペースの確保—親亡き後は、実家に家財を預かることも出来なくなる為。
- ・ ショートステイもできるようにした。

(2)建設

- ・ 総工費1億8,500万円のうち、6,400万円が寄付金。親さんの努力の賜物と言われたが「その努力がすごい。」と思いました。一口1万円で、6,400人の協力を得たということです。

(3)運営

- ・ 入居者が決まってから部屋割りをしていて、相性などは考えていない。1棟の中に男女の個人部屋も混ざっている。現在、特に問題は起きていない。
- ・ 毎月支払う費用は、家賃35,000円、食費15,000円、経費15,000円、計65,000円で建設時に支払った個人負担金は、次のケアホーム建設資金に充てる。
- ・ 入居者は、3棟で18名



てのひらの会 柴田

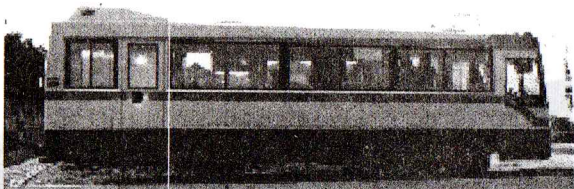
かしの木の会コーナー③

あつとホーム委員会

麦の会・てのひらの会合同

1月27日(金)に麦の会・てのひらの会合同で、「NPO法人ぎふ羽島ボランティア協会・かみなり村」へ施設見学に行きました。

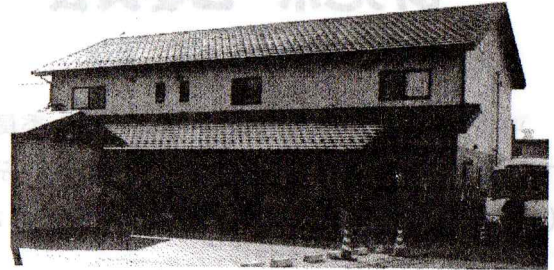
「本館」には、『児童デイサービスセンター・子育てひろば・おもちゃ図書館・ケアホーム』が一つ屋根の下にあり、障害のある・なしに関わらず誰でも利用できる施設です。この日も子供連れのお母さん方が、利用されていました。



庭には、いろいろな遊具やバスを改造した足湯があり、「本物のバスの運転席」という子供心をくすぐる魅力的な遊び場所もありました。

「子供をこんな場所でのびのびと遊ばせてあげたい。」と思える、障がい福祉施設と児童福祉施設が共存しているすてきな場所でした。

「西館」は、ケアホーム・ショートステイの施設にショールームを兼ねた「あろはホール」が併設されています。



「ケアホーム」には、キッチン・お風呂・トイレ付の自立訓練用の部屋が確保されており、こちらで体験してから入所できるので親としては安心できます。



「あろはホール」は、地域の人たちに開放されフラダンスやウクレレの教室が開かれていて、障がいのある人も親子と一緒に楽しんでいるそうです。

また、かみなり村では月に1度「かみなりマーケット」が開かれ、地域の方々と常に交流してみえます。

「一般就労することだけが、目標ではなくその人がどのようにしあわせに暮らすかが大切」と川合理事長さんは、話されました。そして、「年金+2~3万の収入が理想」ということで、いろいろな商品開発や事業展開を考えてみます。

確かに『年金以外に、2~3万の収入があれば・・・』今、移動支援で余暇を楽しんでいる子供達がこの先も“自分らしく生活ができる”のではないかと思います。これが、今後の課題ではないでしょうか。

麦の会・山田

かしの木の会コーナー④

チャイブ保護者会

平成21年4月にチャイブが始まって以来、2ヶ月に1回保護者会を行っています。主に多目的ルームを使用して平日と土曜日の開催が交互に出来るようにしています。働いているお母さん達にも参加しやすいように交互に実施することを決めました。

当初は職員も事業所側も保護者もみんなが手探りで、接客業と福祉サービスの両立に努めました。地域の方達に来ていただけるよう工夫したり、保護者会の中でも親の立場とお客での立場と両方で活動を見守ってきました。チャイブではイベントも小さなものから大きなものまで様々に行なっています。

おやまのカフェやこまこま(雑貨・駄菓子)があるので、保護者会の無い日でも仕事ぶりをのぞきに行くことができます。また、仕事中にはカフェを利用することが出来ないで休日に親子でカフェに遊びに行ったりすることもできます。



〈夏祭りデコフラワー体験にて〉



里を利用している方の親御さんは、里とチャイブと2つの保護者会に所属しているための大変さもあります。榎の木福祉会の他の事業所からは少し離れていますが、かしの木フェスティバルや榎の木盆踊りではお手伝いにも入り、榎の木福祉会との一体感を味わいながら楽しむことが出来ました。



4月からは新しい方も増えるので、チャイブ保護者会として協力してチャイブの活動を見守ってまいります。

チャイブ保護者会 牧

療育サポートプラザ「チャイブ」
〒491-0067 一宮市北丹町2番地
(TEL0586-28-8288)

文芸コーナー

複数的人間存在間における痛み

今から述べることは、J. H. Van Den Berg著 *Divided Existence & Complex Society* からの一部を抜粋要約したものである。もし、一人の人が属しているいろいろなグループが葛藤のうちにあったら、その諸グループがその人を、両立できない行動や義務や確信へと追い込むとしたら、例えば教会や家族は承認しないようなことを国家が要求するとしたら、そんなとき、それぞれの（集団に見合う）自我は、互いに敵対しあうことになるだろう。その人は自分の棲家から引き裂かれ、内心のさまざまな葛藤によって分裂させられる。これはソローキン（1889～1947）からのものであるが、今回の原著書のモチーフのひとつになっている。ここでは、表題にあるように複数的人間存在における痛みを焦点を絞って紹介したいと思う。

16世紀に入り、麻酔として使用したエーテルを合成したのは、ちょうど宗教改革のころで若き天才ヴァレリウス・コルダスという科学者であった。18世紀には、化学者、神学者、哲学者であるジョセフ・ブリストリーが亜酸化窒素（麻酔作用のある無色の気体）を発見した。ということは、18世紀末遅くとも19世紀初頭には、医科学において痛みを伴う外科手術に痛みを減弱させるためにこれらのガスを利用することができた筈なのである。しかし、事実はそうではなかった、ではなぜそうしなかったのか。答えはこうであるはずだ、つまりそうする必要がなかったからなのだ。すなわち、患者がそれを必要としなかった。では、なぜ患者たちにはそれが必要でなかったのだろうか、いいかえれば、19世紀中ごろの患者たちは、18世紀後半の患者たちに比べて、どうして鎮痛剤が余計に必要だったのだろうか。答えは、これら二つの時代間に、痛みへの感受性が増大したからなのである。

ドイツのルネ・ルリシュは、19世紀のまだ初めの頃戦場で軍医をしていた。彼は、同国人や捕虜に対して数多くの手術を行い、痛みの感受性が個人によっても違おうし、国民によっても違うことに気づいた。ロシアのコサックたちは、痛みに対して完全に無関心であった。現に、彼はコサックの何人かを麻酔なしで手術し、手足などの一部を切断することができた。また、ナポレオンの首席外科医ドミニク・ラレイの手記によれば、ロシアの将校が戦場で腕を砕かれたので手術し腕を肩の関節から切断するやいなや、この将校はひらりと馬に乗って逃げていった。しかも、この後ラレイはこの将校と出会うが、傷は見事に癒えていたのである。

第二次世界大戦中の潜水艦乗組士官の話がある。敵艦を追跡中、水雷発射に好都合な瞬間があった。しかし、彼が最終命令を発しようとしたそのとき、艦長は追跡をやめた。その瞬間に痛みがはじまった。脚、胸、背中、身体全体といったふうにあちこちに症状を訴え、結局背中が一番痛むのであった。彼は、病院に連れていかれさまざまな検査をするがどの医師も原因を発見することはできなかった。精神科医だけは、執念深く原因を探っていった。この士官はもとと攻撃的で堅苦しい人物であった。水雷を発射しようとした瞬間は、彼は極度に攻撃的で緊張した状態であったので、艦長の命令は、突然それも強制的に彼のあらゆる攻撃性と緊張の自然なほけ口を停止させた。水雷を発射しようとした瞬間、この士官は艦長に対し頭にきていた。彼は、長いあいだ艦長への批判的攻撃的感情でいっぱいだった。しかし、その瞬間彼は自分の怒りを爆発させることができそうに思えた。その怒りは、当然の理由から言葉や行為で表すことはできなかった。そこで、士官は攻撃性を抑え、艦長に対し自分の本当の気持ちよりもずっと弱い攻撃性で対応した。彼は、何ヶ月間も艦長を片付けてしまいたいと思っていた自己を沈黙させた。彼は、自分にはその時機にふさわしかった自己を断念し、それで痛みがきた。何故痛みがきたのか。それは、痛みは他の人々との関係を廃棄するからで

ある。士官が痛む背中に当てた手で艦長に、背中が猛烈に痛みます、と言ったとき、彼は実際はこう言っていたのだ。「俺は行くぜ。この艦上で起こったことには何ひとつかかわりたくねえよ。この野郎め。俺は艦を降りるんで、代わりに誰か見つけろよ。」口ではこう言えないので、背中に当てた手、痛いという身振り、痛みの状態にふさわしい言葉によって伝えたわけだ。しかし、彼は既に他の者たちからも攻撃的な人間であり、その攻撃性をもってしては誰とも接触がもてなかった。その結果、士官である彼はあらゆる人との関係の文脈から脱落した。あらゆる接触から人を切り離す徴候が痛みである。

さて、次のような結論に達する、すなわち痛みは隔離によって、あるいは对人的断絶によって生じるかもしれない、ということである。言い換えれば、他のあらゆる人々との文脈から脱落する人は痛みを経験するかも知れない。ケーニヒスベルク生まれのイマニエル・カントは、夜間通風の発作に苦しんだとき、間違いなく痛みを軽くする方法を用いていた。彼のストイックな方法の内容は、何であれひとつの対象への哲学者特有の、全力をあげての集中であった。例えば、キケロの名前と、この名前に関連して考えることのできるあらゆるものについて集中するわけである。この方法は効果的であって、あまりにも完全に切り去るので、翌朝になると彼は時に発作があったのかどうか疑うほどであった。この歴史的事例は、痛みの生理学と心理学にとって、極めて重要である。

何かに集中することによって痛みは消失する。文字通り自分を何かに接することによって、ということは何かと結びつきを作り出すことを意味している。このことは誰にでも理解できる。痛みや鈍痛で苦しんでいるとしたら、本をもしできれば刺激的な本を、注意をひきつけるような本を手にとると、痛みは減少したり消滅したりさえするのである。これらの事例はつぎのような結論を導き出す。つまり、痛みは一つの対象との結びつきに依存している。ただし、その関連が意図的であるか非意図的であるかは問わ

ないのである。痛みに対して無関心な兵士たちは、重傷時でさえ、何時間にわたって痛みを感じないが、彼らは確実に戦争、砲弾、航空機などと非意図的に結びついているのである。彼らはこれらの物体から自分を切り離すことができず、自分自身が危険な戦域から去っても数時間後までもなお、そうしたものと強く結びついているのである。自分とつながりを持っていさえすれば、どんなものでも痛みから救うことができるのである。戦争では、敵に属するどんなものでも結びついている。もし事故に遭うとしたら、我々はその事故にまつわる対象とつながりを持っている。

正常な環境のもとで、平和時で何の事故もないときには、我々は日常生活の普通の対象と結びついている。そこでは、こうした普通の対象は、我々と結びつきをつくりあげるさまざまな属性の特徴を備えている。初期のピン、アダム・スミスの時代のピン、カール・マルクスの時代のピン、現代のピンという時代の流れと同様、日常使用するあらゆる物品は、われわれとの結びつきをたえず減少させる結果になっている。対象とわれわれの結びつきの強度が、われわれの痛みへの感受性のものさしである。ピンの物語はそれをハッキリと示している。このように言うこともできるだろう、すなわちピン（または日常使用する物品）が経済的に製造されればされるほど、ピンが刺さったときの痛みは一層強くなった、と。アダム・スミスとカール・マルクスの時代に、普通の対象は我々にとって一層非人間的に、一層無縁になった。神経症が出現したのはこの時機なのである。※本文中、一部に不適切な表現がありますが、ご容赦ください。



著者ではなく、イマニエル・カントの肖像
榎の木園 橋本 昭一

お知らせコーナー

【行事予定 4月～6月】

かしの木の会総会

4月22日(日) 午前10:00～

一宮市尾西庁舎生涯学習センター

ふれあいバザー

5月12日(土) 午前10:00～

榎の木作業所

榎の木運動会

5月27日(日) 午前10:00～

富田山グランド

喫茶

おやまのカフェ

カフェふらっと

もご利用ください。

☆ ボランティアさん募集

毎月のレクレーション等の行事と一緒に楽しみたい方！作業と一緒に手伝ってくださる方！何でも結構です。先ずはご連絡ください

かしの木の里 担当 清原 中山 林 まで

榎の木園 担当 加藤 まで

榎の木作業所 担当 ニノ宮 まで

かしの木サポートプラザ 担当 後藤まで

G.H.Cびさい 担当 藤谷

自主製品 販売中

榎の木園 ふらっとで、コーヒ販売

榎の木作業所 クッキー パン 駄菓子

(店舗) ごみ袋

かしの木の里 ビーズ、革、とんぼ玉、陶

芸、5本指靴下、手芸、押

し花、木工、石鹸など

ステップ「さいた」 花苗

地域の人々に支えられ、地域の人々と共に

かしの木

かしの木の会 事務局 〒494-0018 愛知県一宮市富田字砂原 2147 番地 Tel 0586-63-2111

かしの木の里内 Fax 0586-61-1200

榎の木福祉会

☆榎の木作業所・どんぐり 一宮市富田字漆畑 16 番地 Tel/Fax 0586-61-6055/61-6514

☆榎の木園 一宮市富田字若宮 17 番地 Tel/Fax 0586-62-8202/62-8253

☆ステップ 一宮市明地字上平35番地の1 Tel/Fax 0586-68-1207/68-1241

☆かしの木の里 一宮市富田字砂原 2147 番地 Tel/Fax 0586-63-2111/61-1200

☆かしの木サポートプラザ 一宮市北丹町 2 番地 Tel/Fax 0586-28-8288/28-8188

☆カフェふらっと 一宮市萩原町串作字女郎花 1617 番地 8 Tel 0586-67-5070

☆園芸センターさいた 一宮市西五城字山方21-1 Tel/Fax 0586-62-0039

☆相談支援ゆんたく 一宮市北丹町 2 番地 Tel/Fax 0586-64-5882

☆就業・生活支援すろーぷ 一宮市明地字上平 35 番地の 1 Tel/Fax 0586-68-1207/68-1241

☆療育サポートプラザチャイブ 一宮市北丹町 2 番地 Tel/Fax 0586-28-8288/28-8188

☆居宅介護事業所きーぷ 一宮市富田字砂原 2147 番地 Tel/Fax 0586-63-2111/61-1200

☆G. H. C はぎわら 一宮市萩原町串作字女郎花 1616 番地 3 Tel 0586-67-1787

☆G. H. C びさい 一宮市祐久字九百坪97 Tel 0586-68-6505

(はぎわら .. みずきの家・あおきの家・はすみの家・ポプラ201 びさい .. さつきの家・かえでの家・こぶしの家・あざみの家)